春の沢集中
恵那山　釜川本谷
09 年 6 月 5～6 日
Ｌ斉藤、小藤、三井、松田（記録）

春の沢集中の担当となり、いろいろ考えた末、会で全く足を踏み入れていない、恵那山での集中を提案した。いろいろ調べてみると、ＴＯＫＩアルパインクラブのＨＰに詳しい記録が紹介されており、5パーティ１７人で山頂を目指すこととなった。私の入った釜川本谷は北面の険しそうな谷で、パーティも足が揃っており、足を引っ張るのではないかと少々不安であった。

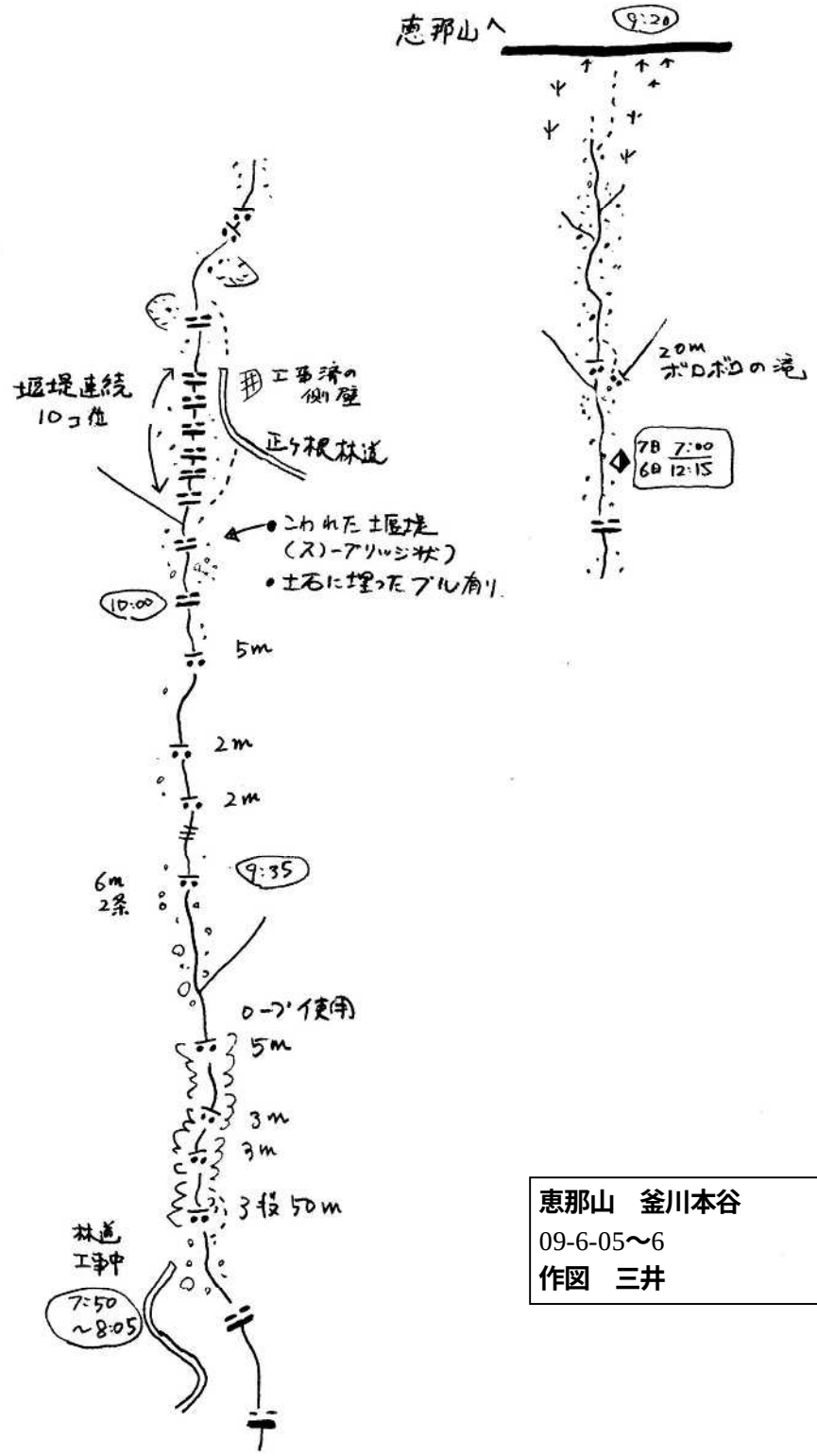
前夜、甲府南で三井さんと合流し、伊那谷の飯島道の駅でＣ０。ここは素敵な休憩室が夜中でも開いており、目の前にはコンビニもあって、前泊地としては最上級。ここから中川村の吉田邸まで車で5分くらいだ。 今回のパーティでは、斉藤さん、小藤さんともに初めての山行であるが、二人とも見るからに登れそうだ。白土さんのパーティと合流し、軽くの入山祝いをして仮眠。
翌朝、寝不足のまま白土パーティと別れ、高速で中津川インターまで行き、釜川林道に入る。しばらく走り、2 回ほどスイッチバックすると車止め。
支度をして、傾斜のきつい林道を辿るがすでに堰堤が多い。林道終点は工事中で大滝がもうすぐ近くに見えているが、何となく岩が脆そうな沢である。 大滝は 3 段で 50m くらいか、滝下まで行くと全く登れそうもないので、右の尾根上に上がり、頼りにならない薄い藪に気を使いながら、大きく巻いて滝の上に。 5～１０m前後の滝が続く中で、傾斜は緩いが落ち口付近がのっぺりして悪そうな滝が現われた。 三井さんが右からノーｻﾞｲﾙで行ってしまうので、途中のテラスでｻﾞｲﾙを出してもらう。 落ち口下はやはり悪くて、毛のソールを履いた斉藤さんがリード。結構悪そうだったが、流石に岩慣れしていて、苦もなく上に抜け、後続を引き上げた。ちょっと面白かったのはこの辺りだけで、あとは単調になる。 赤っぽいナメが終わると、崩れた堰堤が現われた。ここから先は堰堤のオンパレード。 スノーブリッジのように底が抜けた堰堤の下には、土砂に埋まったショベルカーが2台。なんとも言えない光景である。
続く堰堤群は 4 段 100m くらいで、側壁もコンクリートでガードが固く、滝ならいいのに、と思いながら、左岸のヤブを 100m以上登って林道に出て巻く。この林道が全ての元凶のようで、確かに岩は脆そうだが、こんなに堰堤を作る必要があるのだろうかと思う。
この先も堰堤が続き、やっと現われた滝は 100m とは名ばかりのちょっとしたナメ。その上に崩れかけた堰堤があり、左から越える。小藤さんがさっさと登ってしまったが、ぼろぼろでいやらしかった。 ここを越えると前方に岩の墓場と表現された二つの滝が遠望される。 この先天場はなさそうなので、左岸の台地を整地してテントを張る。少しブヨがうるさいが、薪も多くまずまずの場所で、時間も早いのでのんびり過ごす。
食当の小藤さんが持ってきた豚汁はボリューム満点で、とても美味しかった。

翌朝もいい天気で、軽い朝食を済ませ、岩の墓場に向かう。 壮大なガレ場の二俣にかかる滝は 20m くらいありそうだが、水量が少ないので全く見栄えせず、おまけにボロボロときている。右から巻いて、沢に戻るとここからは延々とガレ場が始まる。 時折振り返ると、雪を抱いた乗鞍や穂高がよく見え、単調さを慰めてくれる。だんだん傾斜はきつくなってきて、右の尾根に逃げ、薄い藪をしばらく漕ぐと夏道に出た。恵那山の西の稜線だが、立派な道がついていてかなり歩かれているようだ。斉藤さんが道の脇で着替えている時にも、登山者が一人登ってきたが、女性でなくて幸いだった。１０時の交信をしたが、志満さんのパーティだけが入らないかった。すぐ近くにいる筈なのだが。
山頂を経由して集合地点の避難小屋には、40 分くらいで着いた。 我々がトップバッターで、当然

一番と思った白土さんのパーティも来ていない。流石に100名山だけあって、次々と登山者が訪れ、とても賑やかだ。　やがて白土さんと山本さんのパーティが前後して現われ、釣さんのパーティも到着して、残るは志満さんのところだけだが、いまだ交信できない。宴会やりすぎて、寝坊したんじゃないの、と冗談も出たが、12時を過ぎてだんだん不安になってくる。白土さんが気を利かして、5分ほどは慣れた山頂で交信したところ、ようやく菊地さんの声が飛び込んできた。　まだ山頂まで相当時間がかかりそうな場所にいるそうなので、そこから恵那山神社の方へ向かう夏道を下山してもらうことにした。
かくして、一件落着となり、避難小屋の前で記念撮影。　新しいカメラの操作に手間取った平本さんに、遅すぎる！との声も。
黒井沢の登山口へはよく踏まれた道が続く。雰囲気は南アに似ているが、なかなか感じのいい山という印象を持った。沢は堰堤が多くて、イマイチという意見が多かったようだ。
登山口で2台の車に分乗し、降りていくと、途中で志満パーティに出会い、やあやあ！と声をかけて無事を祝した。　車回収を手伝い、釜川本谷の林道終点の車を回収して、帰路に着く。

帰りの高速から、釜川本谷がよく見えたが、ガレと堰堤だらけであった。　それと比べると隣の岩ヶ沢本谷はガレもなく、緑に覆われ、堰堤も見えない。あちらの方にに行けば良かった、と思った。
・コースタイム
6/5
入渓（8：10）-大滝上（8：40）-天場（12：00）
6/6
天場（7：00）ー20m滝上（7：40）-夏道（9：30～10：00）～恵那山避難小屋（10：40）

・地形図　中津川



恵那山　釜川本谷
09-6-05〜6
作図　三井